信州大学附属図書館医学部図書館の地域関連病院への新サービスの取り組み

石坂　憲司[1)]，折井　　匡[2)]

信州大学附属図書館医学部図書館[1)]，信州大学附属図書館[2)]

Ⅰ．はじめに

信州大学附属図書館医学部図書館（以下，当館）では，地域医療従事者への学術情報提供サービス向上のため，平成20年6月より長野県内の信州大学研修医・研修生派遣病院（以下，関連病院）に対し，次の新サービスを開始した。

①JDream Ⅱのコンソーシアム契約による特別価格での提供

②Web申し込み方式による文献複写物の提供（新文献複写サービス）

この2つの新サービスにより，文献検索は病院図書室で行い，必要な文献は全て当館へオーダーする，というシステムが確立された。

サービス開始から半年余りであるが，開始に至る経緯と現状を報告する。

Ⅱ．開始に至る経緯

平成20年6月のサービス開始に至るまでのトピックを**表1**にまとめた。

表1．新サービス開始に至るトピック

平成17年12月	「長野県医学図書ネットワーク」発足
平成19年4月	料金後納制度の開始
平成19年8月	高知大学のJDream Ⅱコンソーシアム事例発表 JDream Ⅱ契約の折衝開始
平成20年1月	大分大学の医学文献デリバリーサービス正式運用開始
平成20年4－5月	JDream Ⅱトライアル実施 長野県内各地で講習会開催
平成20年6月	当館の新サービス開始

1．長野県内での病院図書館間の連携

「長野県医学図書ネットワーク」（以下，当ネットワーク）は，平成17年12月に，会員相互の緊密な連絡と協力，研鑽により，病院図書室等の充実と向上に努め，医療情報活動を通じて地域医療の発展に献身することを目的に発足した。会員は目的に賛同する長野県内の図書館担当者，病院図書室担当者，医療関係者で構成され，病院関係者13病院14人，大学図書館2館2名，の計15施設16名で発足した。これらの病院は地域中核病院として，また研修医や学部学生の研修先病院として，信州大学とも関係があった。

当ネットワークの発足により，情報交換の場が作られ，問題が発生した時は，電話等で直に問い合わせができるようになった。研修会も年2回のペースで開催され，講師の方と宿泊しながらの懇親会を行うことで，顔の見えるネットワークとなり，困った時は相談しあえる仲間，スキルアップの場として，大いに活用されている。会員も増え，平成20年4月には18施設20名になった。

県内での相互貸借（以下，ILL）も活発となった。特に平成19年度から信州大学（以下，本学）で開始した料金後納制度により，文献入手に要する時間が従前の約2週間から2日程度と短縮された。本学で契約している多くの電子ジャーナルが利用提供でき，文献入手の利便性が格段に向上し，その結果，多くの病院図書室から依頼が来るようになった。

2．長野県の卒後臨床研修制度

長野県の卒後臨床研修は，信州大学医学部附属病院（以下，信大病院）を核として，県内の地域中核病院と連携している。2年の研修期間のうち1年を信大病院で，残り1年を関連病院で行っている。信大病院研修中は，教員と同じサービスを図書館で受けることができるが，関連病院へ行くと信大病院研修時との差が大きく，改善を求める声が上がっていた。

3．料金後納制度の開始

本学附属図書館は，当館のほかに，松本合同図書館，

1) Kenji ISHIZAKA：〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1.
Tel.0263-37-2584　Fax.0263-37-2587　jja0101@shinshu-u.ac.jp
2) Tadashi ORII
（2009年2月27日　受理）

教育学部図書館，工学部図書館，農学部図書館，繊維学部図書館と5つの図書館を有している。

本学附属図書館では，法人化後の平成16年度～18年度の間，NACSIS-ILLの非相殺参加館への料金決裁は，現金書留送付による前払のみの運用をしていた。当館以外の図書館では前払いのみの運用で特に問題は無かったが，当館には県内外の病院側から後払い方式への強い要望が寄せられていた。これらの要望を元に，全学図書館のコンセンサスを得，平成19年度から料金後納制度を実施することとなった。

このことにより，文献複写物の迅速な提供，支払処理の簡略化，書留料金および領収証書発行の不要といったメリットが生じた。

表2にあるように，実施前と比較し，料金後納制度を開始した平成19年度は，非相殺館から当館への文献複写受付数が従来の3倍程度と飛躍的に増加している。平成20年度は，新文献複写サービスを開始したこともあり，さらに件数を伸ばしている。

表2．非相殺館からの文献複写受付数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
前払	122	171	212	19	41
後払				555	1,378
合計	122	171	212	574	1,419

4．（独）科学技術振興機構（以下，JST）からの提案

平成19年8月に第14回医学図書館研究会・継続教育コースが開催され，研究会において高知大学でのJDream Ⅱの事例が発表された。この研究会にはJSTの職員が参加されており，本学に対しJDream Ⅱコンソーシアムの導入についての提案があった。高知大学の導入事例では主に大学側がJDream Ⅱの利用料を支払っているが，高知大学と同様な形式で信州大学で導入することは非常に困難である旨を回答した。

しかし，当ネットワークの活動や，長野県内病院における信大病院の立場等を話す中で，本学，長野県内病院，JSTの3者がうまく結合できないか，との話に進んだ。

後日，JSTより本学はJDream Ⅱを導入する経費を負担するだけで関連病院も安価にて導入できる提案がされたので，本学医学部にて検討の結果，当館が中心となり積極的に関連病院へのJDream Ⅱコンソーシアムの参加を推進することにした。

5．大分大学の医学文献デリバリーサービス

平成20年1月，大分大学医学図書館では県内医師に対してオンライン申し込みによる文献デリバリーの正式運用を開始した。大分県内の医師が事前に取得したIDで大分大学へ文献複写を申し込めるシステムで，単に大分大学だけでなく所蔵大学から文献を入手して，希望する医師に渡すシステムは，当時大きな反響があった。

本学としても，料金後納制度による病院図書室への文献複写物の提供を行っていることから，関連病院を対象とするなら，それほど問題なく文献デリバリーシステムを立ち上げられるとの見通しを立てた。

6．JDream Ⅱトライアルの実施と利用講習会を開催

1）JDream Ⅱトライアル

平成20年4～5月の間，27病院が参加し，かなり利用されているとJSTから報告があった。

2）利用者講習会

本学は，長野県内各地に5キャンパスを有する。その特性を利用し，長野，松本，上田，南箕輪の4キャンパスで5回の利用講習会を実施した。本学としてもJDream Ⅱは初めて導入することもあり，学内者および病院関係者を対象とし，全部で108人の参加を得た。その内，関連病院からの参加者は12人であった。

Ⅲ．JDream Ⅱコンソーシアム契約の現状

高知大学の場合，当初すべて大学側で経費負担していたが，現在は参加病院も参加費として一部負担している。

本学の場合は，JST（代理店）との間で，当館側，関連病院側とも，各々独立契約とすることとした。通常，病院がJDream Ⅱを導入する際の最低料金は，年間30万円（同時アクセス3）だが，今回のコンソーシアムの提案は，次の2通りである。

・年間10万円（同時アクセス1）

・年間15万円（同時アクセス2）

このことにより，関連病院にとって，JDream Ⅱを低価格で導入できることとなった。

なお，平成20年度は13病院がコンソーシアムに参加した。

Ⅳ．新文献複写サービスの現状

新文献複写サービスでは，関連病院からの文献複写の申し込みは，全てWeb依頼としている。当館に所蔵している資料は当館で複写して依頼病院に提供し，当館に未所蔵の資料は他の所蔵館に依頼して取り寄せ，依頼病院に提供する。ただし，業務量の推測が困難であり，サービス対象は当面JDream Ⅱ参加病院とした。

申し込みから文献提供までの流れを**図1**に示す。大分大学の事例とほとんど同じであるが，次の4点が大きな差異である。

大分大学：

1. 個人単位によるID発行
2. 料金請求は前払いと後払い併用
3. 電子ジャーナルをサービス対象としていない。
4. 平成18年1月から試行開始

信州大学：

1. 病院単位によるID発行
2. 料金請求は後払いのみ
3. 電子ジャーナルも複写の対象（ILL可と契約されているもの）
4. 試行なしの本番運用

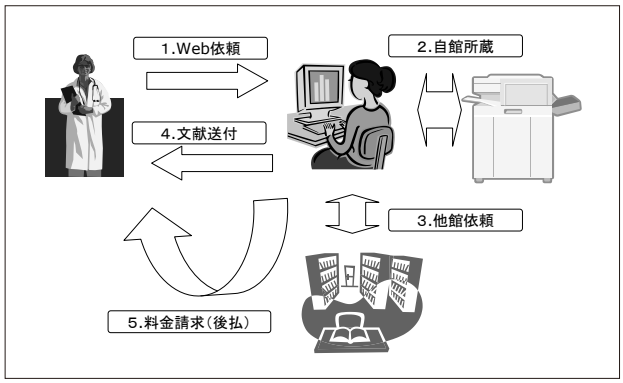

図1．新サービス対象病院からの流れ

1．Web方式による申込み

業務効率化のため，すべてWeb方式とした。申し込みに使われた依頼データを所蔵確認，文献複写依頼時に流用できるといったメリットがある。

初期処理として，希望する病院は利用申請書を提出する必要がある。申請書の内容は，所属，名前，連絡先，IPアドレスといったものである。内容確認後，当館側は，NTTデータの図書館システムであるNALISによる利用者登録を行い，申請病院に対し，承認書の発行を行う。

次に，新文献複写サービスの対象病院については，四半期毎の料金の後払い方式としているため，利用される病院からは文献複写料金後納許可の申請を行ってもらい，当館から承認書を発行している。

毎回行う処理としては，病院側がNALISのWeb申込機能を使い，文献複写の申し込みを行う。

2．自館所蔵

複写依頼があると，当館の文献複写依頼担当は，所蔵確認を行い，当館所蔵の場合は，NALISローカル機能を用いて当館に依頼を行い，文献複写受付担当が現物の複写作業等の処理を行う。当館所蔵の場合の1件あたりの請求料金は，1枚35円＋依頼病院までの送料である。

3．他館依頼

当館に所蔵が無い場合は，NALISによる学外文献複写依頼機能を用いて他館（所蔵館）より文献を入手する。この場合の請求料金は，他館から入手するために要した料金に，当館から依頼病院までの送料を加えたものであり，手数料は請求していない。

4．文献複写物の送付

当館では，平成19年9月より，依頼病院に文献複写物を送付する際，ヤマト運輸のクロネコメール便を利用している。A4サイズで厚さ1cmまでであれば，80円（速達の場合，100円加算）と25グラムを超過した際の郵送と比べて安価であるが，近隣でも先方には翌々日配達というデメリットもある。

5．料金請求

四半期末になるまで文献複写物の料金請求を行わないので，初期処理の際に若干期間を要するが，その後は現金による料金前払いと比べてかなり早く文献を入手できる。

四半期毎の作業内容は，依頼病院からのデータ集計を行い，それを元に未収伝票･収入契約決議書等を作成し，本学から当該病院に請求書を発行している。

6．処理件数

平成20年6月より新サービスを開始したが，平成20年7月より実際の文献複写処理が発生した。平成20年7月～平成21年3月の間，6病院が参加し，次の処理件数があった。

自館対応	268件（51％）
他館依頼	258件（49％）
合　計	526件

月別の件数を**図2**に示す。ほぼ安定した数値となっている。

利用病院からは，文献到着のいっそうの迅速化，文献提供と同時に電子化された依頼データ（書誌事項，料金等）も提供して欲しいといった要望がある。

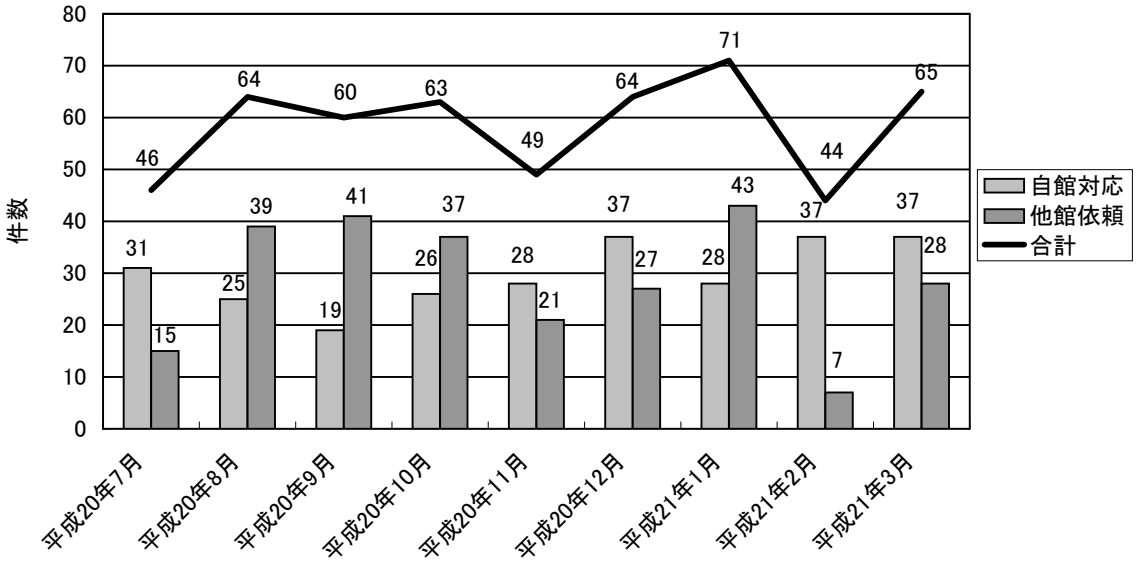

図2．文献複写処理件数（平成20年7月～平成21年3月）

Ⅴ．今後の展望と課題

1．JDream Ⅱ

現在，平成21年度の参加に向けて，関連病院に広報しているが，JDream Ⅱがどんな検索システムか知らない病院もある。また，病院側にとって，新規データベースの導入は，昨今の経営事情を考慮すると，慎重にならざるを得ない面もある。

当館，JST，契約業者からさまざまな広報活動を行ってきたが，もう一度広報のあり方を見直しする必要があると考えている。

2．新文献複写サービス

当館のサービスも平成21年度の参加に向けて，関連病院に広報しているが，当館の運用体制を考慮し，しばらくサービス対象はJDream Ⅱ参加病院のままとした。

次のステップとして，広報のあり方を見直すとともに，JDream Ⅱ参加病院がサービス対象という制限をなくし，関連病院すべてを対象にすべく検討したい。参加病院が拡大した際に増加する文献複写サービスの対策を模索している。

業務の最適化を図るために，文献複写処理体制の見直しも必要だが，場合によっては，スタッフ増員も視野に入れなければならない。ただし，業務量の予測が非常に困難ではある。

Ⅵ．おわりに

JDream Ⅱコンソーシアム契約，新文献複写サービスといった当館の新サービスを開始したことによる，本学研修医・研修生派遣病院に対する学術情報提供は，地域医療の質的向上を図るためのひとつのインフラ整備を提供したと言える。

次に，信大病院では，平成21年5月の新病棟のオープンにともない，その1階に患者図書室（愛称：こまくさ図書室）を開設する。この図書室の運用システムは松本市立図書館のシステムを使い，利用者は，松本市立図書館と同様のサービスが受けられる。患者図書室に対しては，当館も図書の受入，選書補助の相談等の業務の協力を行っているほか，患者図書室利用者が，より専門的な図書を求める場合，閲覧，貸出に対応する予定である。

昨今，かように当館のサービスも拡大しているが，時代の要請に柔軟に対応しつつ，発展し続ける医学図書館でありたいと考えている。

なお，新文献複写サービス開始にあたり，大分大学の山田哲敬氏にはさまざまな助言をいただいた。ここに謝意を表する。

本稿は，平成20年11月6日，関西医科大学で開催された第15回医学図書館研究会において発表した内容に，その後の進展により加筆を行ったものである。

参考文献

1）前澤好広．長野県でのネットワーク活動について．病院図書館．2006;26(2):54-5.
2）田所千峰子．臨床研修協力病院とのデータベース共同利用：高知大学総合情報センター（図書館）医学部分館の例．医学図書館．2007;54(1):69-72.
3）第14回医学図書館研究会･継続教育コース予稿集[internet]. http://mlib.md.shinshu-u.ac.jp/14/yokou.pdf [accessed 2009-04-13]
4）山田哲敬．大分大学『医学文献デリバリーサービス』による地域貢献への試み．医学図書館．2008;55(3):224-8.
5）新井兼．科学技術資料の電子化，地域医療従事者への情報サービス．薬学図書館．2008;53(4):323-7.

An Action to the New Service to Affiliated Hospital at the Medical Library of Shinshu University

Kenji ISHIZAKA, Tadashi ORII

Medical Library of Shinshu University, Shinshu University Library. 3-1-1 Asahi, Matsumoto-city, Nagano 390-8621, Japan

Abstract: In June 2008, the Medical Library of Shinshu University started the two following services aimed at improving the academic information service provided to the community medical care staff at hospitals in Nagano accepting residents of Shinshu University.

1. JDreamⅡ service at the special price as a consortium.
2. Document delivery service for requested materials not belonging to the Medical Library of Shinshu University through the internet.

These allowed the users to apply to the Medical Library of Shinshu University for all the documents that they might need. In all, 13 hospitals have joined the JDreamⅡ consortium and 6 hospitals applied for the document delivery service in the 2008 academic year. We are planning public relations activities for increasing the number of hospitals in the consortium and are also planning to meet the potential increase in demand for the document delivery service.

Key words: Library Cooperation; JDreamⅡ; Medical Libraries

(*Igaku Toshokan*. 2009;56(2):151-155)